

Q 紙の使用量を削減する意義とは？

A 紙には大きく2種類、森林資源を使って作る紙（便宜上「バージンパルプ由来の紙」と言います）と、リサイクルのために回収された古紙を利用して作る紙（「再生紙」といいます）とがあります。前者については、森林を伐採し、伐採した木材をチップにした上で薬品で煮込んでパルプ（バージンパルプ）を作り、パルプから紙を作ります。後者については、回収した古紙を水に溶かしてパルプを作り、パルプから紙を作ります。

バージンパルプ由来の紙の使用量を削減すれば、温室効果ガスであるCO₂の吸収源である森林の減少が抑えられ、温暖化防止に役立ちます。また、森林には多種多様な動植物が生息しており、森林資源の保護は、生物多様性の保全にも繋がります。ちなみに、世界では、毎年520ヘクタール（東京ドーム400個分に相当）の森林が減少していると言われていています（2000年～2010年平均）。

では、再生紙であればいくら使って問題ないのか、ということというわけではありません。

確かに、再生紙を使うことで、森林資源の保護には繋がります。ただ一方で、古紙からパルプを作る過程において、古紙に印字されていたインクを落として漂白する必要があるのですが、その際に化石燃料を使用するため、温室効果ガスが排出されます。また、古紙からパルプを作るにあたり、古紙配合率100%の再生紙を除き一定量のバージンパルプが必要となりますし、古紙の再生は、繊維の劣化によって回数に限界があり（3～5回程度と言われていています）、永遠に再生できるわけではありません。

したがって、再生紙の使用量を削減することでも、CO₂の排出が抑制され、温暖化防止に役立ちます。

以上のとおりですので、バージンパルプ由来の紙にしても再生紙にしても、全体として使用量を減らすことが環境負荷の低減に繋がるのです。

紙を使うにあたっては、必要性を十分に検討し、適正な数量に限るよう心掛けていただけると幸いです。

以上